

1. 平成20年10月～12月期の景気動向

前期に比べ、DI値の平均が47.6ポイントから64ポイントとなり、調査開始以来最悪の数値となった。ほとんどの業種で景況は大幅に悪化しており、原材料価格は高騰のまま推移し、需要の停滞が景況悪化の大きな要因となっている。

業種 項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		10～12月	1～3月	10～12月	1～3月	10～12月	1～3月	10～12月	1～3月	10～12月	1～3月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		56 (63)	50 (57)	65 (54)	59 (59)	67 (40)	67 (56)	45 (50)	44 (40)	52 (50)	58 (63)
採算		88 (75)	69 (79)	64 (53)	62 (51)	67 (50)	56 (10)	50 (53)	52 (41)	52 (61)	58 (61)
資金繰り		56 (44)	50 (43)	55 (35)	58 (39)	22 (13)	22 (10)	45 (38)	52 (43)	43 (35)	35 (35)
業況		73 (63)	50 (80)	67 (48)	61 (53)	67 (22)	71 (11)	59 (48)	59 (41)	54 (57)	46 (45)
経営上の 当面する 問題点	1位	官公需要の停滞		需要の停滞		仕入単価の上昇		購買力の他地域への流出		需要の停滞	
	2位	民間需要の停滞		原材料価格の上昇		販売単価の低下・上昇難		需要の停滞		利用者ニーズの変化への対応	
	3位	請負単価の低下・上昇難		製品(加工)単価の低下・上昇難		需要の停滞		消費者ニーズの変化への対応		人件費以外の経費の増加	
業種別 コメント		<p>前回調査時に比べ業況のDI値はマイナス10ポイントも上昇した。特に採算面では88ポイントで、極めて厳しい状況である。公共・民間工事の減少が一層顕著。先の見通しでは、好転、増加を見込んでいる企業はゼロで引き続き厳しい状況と回答の企業が増加。</p>		<p>DI値は67ポイントで前期に比べマイナス19ポイントも上昇。調査4項目全てでマイナスとなっており好転・増加と回答した企業割合激減。経営上の問題のトップは需要の停滞が圧倒的に多く特に11月以降の受注減が顕著で今後回復の見通しが立たない状況がしばらく続くとしている。</p>		<p>前期に引き続きDI値はマイナス傾向であり、当面の問題点では原材料の高騰があげられる。年末年始が過ぎ消費者の購買意欲が更に落ち込むことが予想される。</p>		<p>年末商戦を迎えても将来不安による消費マインドの冷え込みにより各項目ともDI値のマイナスが大きく暖冬傾向の影響による冬物関連商品が苦戦している。来期見通しでは、依然節約志向が強まる中で、個人消費のさらなる減速が懸念される。</p>		<p>灯油、ガソリン価格が以前の水準に戻ったものの先行き不安から利用回数の減少等による収益の悪化など、各項目ともDI値のマイナスが大きく、先行きの不安を危惧する意見が多い。来期見通しでは、改善の兆しが見えない状況である。</p>	



とくに好調
(50 DI)

好調
(25 DI<50)

まあまあ
(0 DI<25)

不振
(25 DI<0)

きわめて不振
(DI<25)

当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

()は前回調査時のD・I値